

科目名	地域社会と環境	備考	
単位数	2 単位	授業形態	講義

清 水 知 佳

《公害から現代まで》

1. 授業内容

環境法は 1993 年に制定された環境基本法を頂点として生成されましたが、現在においても、地球温暖化や原子力災害という事象を受け刻々と法整備が図られています。本講義では、環境法の複雑な体系を捉え、そこに存在する環境法固有の理念・目標、方法の理解を目指します。

2. 到達目標

本講義では、環境法がどのような特徴をもっており、どのような基本原則に基づいてどのような仕組みをもっているのか、について個別法令に共通する考え方を学びます。環境法が公害法から拡大し、いかに発展を遂げてきたのかについて丁寧に追いながら、今日における各種環境問題への法的解決について学んでいきましょう。

3. 到達目標となる駿大社会人基礎力/養成する能力要素（スポーツ科学部）

理解力、多面的思考力、課題発見能力、問題解決能力

4. 卒業認定・学位授与方針との関連

この科目はディプロマ・ポリシー(全学部)の「(5)総合的な力」と関連しており、受講生は環境問題を総合的にとらえる視点を身につけることができる。

5. 関連科目

憲法概論・行政法概論・行政法総論Ⅰ・行政法総論Ⅱ・行政手続と行政争訟Ⅰ・同Ⅱ・地方自治法など

6. テキスト・参考書等

テキスト：特になし

参考書：別冊ジュリスト『環境法判例百選〔第3版〕』（有斐閣）

講義において関連する判例を適宜勉強していきます

7. 授業外における学習方法及び必要な時間

講義の進行によって、該当するテキストや参考書の関連ページを読む(2.0 時間)。
さらに、それらについての判例を判例百選などで読む(2.0 時間)。

8. 成績評価方法

評価種別	割合 (%)	成績評価基準・その他備考
期末試験	70	到達目標の達成を確認するため、筆記試験を行います。環境法固有の理念、目標、方法等を問い、論理的な思考力を評価します。
レポート、授業態度	30	出席点は評価しませんが、レポートや授業内の態度(発言、勉強意欲等)を評価する。

9. 課題に対するフィードバックの方法

講義において受講生に質問するなど対話型の講義を目指し、学生の理解度を確認しつつ講義を進めます。

レポート等については、できるだけ授業内にて解説します。また、優秀答案については、適宜紹介したいと思います。

10. 実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験： -
実践的な教育の取組： -

11. 授業計画

第1回	ガイダンス 環境法とは
第2回	環境法の生成 (①公害法)
第3回	環境法の生成 (②公害対策基本法)
第4回	環境法の生成 (③公害環境訴訟法)
第5回	環境法の生成 (④環境基本法)
第6回	環境法の理念と課題
第7回	環境法における主体の役割
第8回	環境法の諸領域 (①条例論)
第9回	環境法の諸領域 (②公法規制と私法規制)
第10回	環境保全の手法 (①規制的手法)
第11回	環境保全の手法 (②経済的手法)
第12回	環境保全の手法 (③計画的管理的手法)
第13回	環境保全の費用負担
第14回	埼玉における環境問題
第15回	まとめ